

じどうかん通信

第130号

令和6年10月発行

愛知県児童館連絡協議会

交通児童遊園のリニューアルオープン

春日井市交通児童遊園

50年以上の間、こどもたちや地域の方々から愛されてきた春日井市交通児童遊園は、建物の老朽化が進み、バリアフリー化への対応も不十分であったため、令和4年度から5年度にかけて建替え工事を行い、令和5年6月にリニューアルオープンしました。

リニューアル後は、毎日多くの来園者で賑わっています。平日の午前は未就園児とその保護者が多く訪れ、多目的ホールに置いてある“かめさんマット”を見つけると「かめさんとこ行く」と嬉しそうな顔でトコトコ歩いたり、館外で乗用玩具に乗ったりするなど親子で楽しくあそぶ光景が広がっています。午後からは「バ



ドミントンできる?」「卓球やりたい!」など放課後のこどもたちが元気よく来園してきます。お気に入りの玩具であそんだり、空き箱や段ボール、ひもなどを使って工夫しながら工作したり、お絵かきやぬりえ、ボードゲームを楽しんだり、宿題をしたりと、こどもたちが思い思いに自分のやりたいことを見つけて楽しんでいます。

館外には、こどもたちに人気の蒸気機関車や消防車が展示されているほか、信号機や踏切、横断歩道など、各種交通設備を備えたトレーニングコースも設置しており、交通ルールを学ぶのに最適です。園では、自転車の無料貸し出しも行っており、気候がよいときは、順番待ちの行列ができるほど人気となっております。自転車の乗り方を覚えるために来園される方も多く、県外から来園される方もいるほどです。週末には、ゴーカートも利用することができ、園内のあちこちで親子が楽しい時間を過ごす様子を見ることができます。



今後も、こどもたちが心地よく過ごせる場所、居場所となるよう、また、来園する方に気持ちよく利用してもらえるよう、職員一同サポートしていきたいと思っています。

令和6年度 第1回ブロック研修会に参加して

稲沢市 大里東チューリップ児童センター 大野 祐嗣

令和6年6月7日(金)豊山町社会教育センター2階ホールで開催された、第1回西尾張ブロック研修会に参加しました。こまきこども未来館の瓜生俊基氏による「ゲーム・運動遊び」の講義や実践、「資質向上のための研修」を行いました。

午前中の「ゲーム・運動遊び」では、自分の名刺を使い自己紹介をしながら『ジャンケンベースボール』を行い、心と体をほぐしました。次に行った『ito』では、今日初めて会った人とも会話が膨らみ、意思疎通ができるぐらい遊びを楽しみました。最終的にゲームは失敗しましたが、協力して取り組むことで一体感が生まれ、ゲームが終わると自然に拍手が起き、達成感がありました。次々に集団ゲームを行い、チーム対抗のゲームになると作戦会議なども行い、団結することができました。初めて出会う大人の人達でもこんなにも楽しく交流を深められるので、児童館職員として子ども達に『遊ぶって楽しい!』と思えるように遊びを一緒に行い自分自身も一緒に楽しみたいと思いました。

午後からは「資質向上のための研修～ボードゲームで育つこどもの心～」ということで、子どもの気持ちになって、様々なボードゲームを実際に遊びました。ボードゲームには対象年齢があり、年齢にあったゲームをすることで子どもの成長を促す働きがあったり、子どもの気持ちに寄り添った工夫があったり奥が深い遊びだと分かりました。非認知能力を高めることもあり、ゲームを通して成功、失敗を重ねて経験を積み成長できるので、児童館でもたくさん取り入れたいと思いました。またボードゲームはドイツで始まり、家族の時間を作る大切な遊びとして広がっていったので、児童館でも子ども達との時間を大切にしていき、児童館が子どもにとって大切な場所になるよう、子どもと向き合い、子どもと共に成長していきたいと思いました。



令和6年度 第1回児童厚生員研修会に参加して

高浜市 東海児童センター 和田安祐美

令和6年7月12日(金)、半田市福祉文化会館にて開催された第1回児童厚生員研修会に参加しました。あいち発達障害者支援センターの小松正明氏により、午前は『配慮を要する児童の対応』、午後は『プロの話を聴く技術』と題した資質向上のための研修が行われました。

午前は、児童クラブにおいて発達障害をもった児童や保護者への対応・配慮について、講師の経験談や実践を交えて教わりました。障害特性そのものは大人になってもずっと変わらず持ち続けるため、児童クラブから家庭への連絡時に、言葉では伝わりにくい保護者には、発達障害を持っているのは児童だけではなく、保護者に発達障害がある可能性を考慮し、接していくことが大切だと感じました。発達障害と一言と言っても一人ひとり抱えている困難さが異なるため、個人に合わせた配慮を行う必要があると教わりました。児童が勉強や宿題でつまづいている場合を例に取り上げ、算数の文章問題が苦手な子には問題で問われている部分に線を引いて強調する、音読が苦手な子には文章の意味のまとまりで区切り線を入れるなど、困難を解消するための方法や工夫について具体的な方法を知ることができました。児童が何に困っているのか、困っている原因は何なのかということを一一人丁寧に捉え、支援していくことが大切だと感じました。

午後は4人ほどでグループを作り、実際に話をしたり聞いたりするグループワークを主に行いました。話を聴く側は、どのように自分がふるまっているのか、自分の仕草・態度が相手にどのような印象を抱かせるのかを自覚する必要があるということ、話しかける側は自分の声が相手の声を包みこむようなイメージで声を出す、相手の話を引き出すために「何で」「どうして」という言葉は使わず具体的な聞き方をするを意識することが必要である、ということのポイントとし、グループで実践しました。

相槌をあまり打たずに話を聴くと聞いてもらえているのか不安になり話しづらくなり、具体的な質問をするとより話しやすくなるということが体験できました。教えていただいたポイントを少し意識することで、相手に与える印象が大きく変わることに驚きました。

また児童と1対1で話をする場合は、児童が話しやすい環境であることが求められるため、落ち着ける環境があるか館内の環境を見直していくことも必要であると感じました。

今回の研修では様々な状況に応じた対応の仕方や実践的な方法について学ぶことができ、実際にやってみようと思うものが多かったです。この研修で学んだことを、今後の業務に活かしていきたいです。

～行事の紹介～ こどもまんなかじどうかんまつり

長久手市 長久手北児童館

今年度から子どもスタッフを募集しての児童館まつりが復活します！子どもたちが待ちに待っていた児童館まつりだったようで、小学1年生から中学3年生まで33人の申し込みがあり、その他に部活や塾で忙しい中学生は子どもスタッフではなくボランティアとして参加してくれることになりました。10月下旬のまつりに向けて6月から9月の月1回子どもスタッフ会議をし、一から作っていくことにしました。小学生が自由に意見を出し、中学生が形にするために大学生と職員がサポートする体制にしました。(※1)

まず『和』をテーマに決定すると館内を境内にする装飾やプログラムなど次々決まりました。小中学生は、自分達がイメージした境内でアナログゲームカフェや風船バレーをするために遊戯室の壁面には木を生やし、鳥居や九尾の狐(※2)を作っていました。自治会の方からは法被や御神輿の提供がありました。中学3年生8人は受験勉強の合間を縫って時間を合わせて来館し、大道具や看板、ルール決めなどに積極的に取り組んでくれました。(※3)

また、夏休みからポイントカード(※4)を発行したことで児童館のどのイベントにも興味を持ち、参加率が高くなりました。特にポイントを稼ぐことができるスタッフや中学生ボランティアとのアナログゲーム対決では、興味を示さなかった子どもたちが次々にアナログゲームにはまり、児童館まつりに向けてポイントを貯めてポイントに応じたおやつと交換できることを楽しみにしていました。お祭り当日もポイント制を導入しました。

その他に、ヒヤリハットの防止にも努めました。まつりを2パターン(筋肉児童館まつりと頭脳児童館まつり)にし、棲み分けをすることで店同士の密接をなくし移動しやすい動線を確認しました。生演奏で気持ちを穏やかに、そしてヒヤリハットの防止に繋がればいいなという思いを込めて、ストリートピアノをすることにしました。スタッフの子どもたちは、18種類全ての店舗で楽しんでもらえるようイメージトレーニングしています。



※1



※2



※3



※3



※3



※4

～行事の紹介～ こざかい葵まつり・児童館まつり

豊川市 こざかい児童館

豊川市内には児童館・交通児童遊園が11館あり、それぞれの児童館で企画を工夫しながら運営をしています。

市内小坂井地区にある「こざかい児童館」は、令和3年5月に開館した支所や図書館などの複合施設「こざかい葵風館」館内に移設され、装い新たに運営されています。

例年10月には地元の商工会主催による「こざかい葵まつり」が葵風館にて開催され、児童館でも児童館まつりを同時開催しています。

児童館まつりでは、手作りのワニワニパニックやストラックアウトなどの大型ゲーム、お面の塗り絵コーナー、ボランティアの方によるバルーン遊びなどが行われ、子ども達からは、「どっ楽しい!」「何回もゲーム全部まわったに!」という声や、保護者からも「こんな楽しい手作りゲームが年に1回だけなんてもったいない!」と好評をいただきました。

結果、1日で幼児から中学生あわせて約500人、保護者約300の方が来館されました。今年度も多くの子ども達が来てくれることを楽しみにしています。



〈ワニワニパニック〉



〈お面の塗り絵コーナー〉



〈ビンゴゲーム〉



〈ストラックアウト〉

～あそびの紹介～ 9マス鬼ごっこ

北名古屋市 沖村児童館

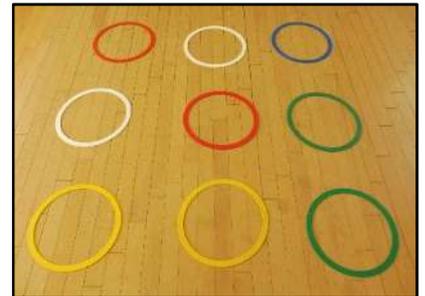
外に出て思いきり体を動かして遊びたいけど、毎日暑過ぎたり雨が降っていたりで外に出ることができない！そんな時に室内でできる、体を動かす遊びです。

用意するもの

- ・ ラバーリング
(無ければビニールテープ等、マスを作ることができれば大丈夫です)
- ・ ある程度のスペース
- ・ 体を動かしたいという気持ち

事前準備

- ・ ラバーリングを3×3マスに並べます。
- ・ ラバーリングが無い場合はビニールテープを3×3マスになるようにします。



ルール

- ① 4人程度でグループを組みます。(多すぎると動けなくなり、少なすぎるとなかなか捕まえることができません)
- ② ジャンケンをして、鬼を1人決めます。
- ③ それぞれ好きなマスに立ちます。
- ④ 「せーの」や「1・2・3」等の掛け声に合わせて全員同時に1マス動きます。動ける場所は前後左右のみで、斜めは動けません。
- ⑤ 鬼と同じマスに移動した人がタッチされたことになり、鬼を交代します。



遊んでいた子ども達の発展ルール一例

- ・ 4×4マスや5×5マスに広げて、参加人数を増やす。
- ・ 鬼にタッチされた人はマスの外に出て、最後の1人になるまでやり続ける。
- ・ 斜め移動を有りにする。(鬼の交代が早くなります)

～あそびの紹介～ コロコロパターゴルフ

東浦町 緒川児童館

去年の児童館まつりで好評だった遊びを紹介します。

<材料>

- ・ 細長い棒
- ・ 牛乳パック 500ml (中に新聞紙を入れる)
- ・ 蓋つきのカップラーメンの容器 2個
- ・ 半円の容器 2個
- ・ 鈴 2個



それぞれを組み合わせて、パターとボールを作る。

持ち手の長さをいろいろな長さにすると遊びも盛り上がります。

<遊び方>

- ・ 的を用意して、好きな長さのパターを選んで的に向かって打つ。

狙って打っても、コロコロと回るため、年齢関係なく誰でも楽しむことができます。



児童厚生二級指導員の資格取得について

一般財団法人 児童健全育成推進財団資料より

1 役割

児童館・児童クラブの機能と活動内容について理解するとともに、修得した児童健全育成活動の基礎的な知識・技術を用いて、遊びや生活を通じた児童の健全な心身発達を直接的に支援する人材です。

2 認定要件

児童健全育成推進財団が定める研修体系に準拠した基礎研修の理論(9科目)および実技(必修3科目+選択必修1科目)を履修した児童館・児童クラブ等に従事する現任者。

3 必要な科目

【必修科目9科目】

①健全育成論 ②児童館論Ⅰ ③児童館論Ⅱ ④安全指導・安全管理 ⑤児童の発達理論 ⑥配慮を要する児童の対応 ⑦個別援助活動 ⑧集団援助活動 ⑨地域福祉活動

【選択必修科目3科目から合計4科目】

⑩ゲーム・運動あそび ⑪表現活動 ⑫救急法 + ⑩か⑪の選択により、合計4科目。

4 取得方法

財団主催の「児童厚生員等研修会」を修了し、かつ不足科目(救急法)を取得する、又は、愛知県児童館連絡協議会及び愛知県児童総合センター主催の児童厚生員等研修会で必要科目のすべてを履修する。

5 申請窓口

財団に申請してください。

6 申請方法

①冊子『児童館・児童クラブの研修体系と資格制度』(15ページ)を参照し手続きを行う。

②申請書に必要書類及び費用振込の受領証を添えて、財団事務局へ申請する。

7 必要書類

- ・児童厚生二級指導員申請書 1部
- ・資格取得に必要な科目を履修したことを証する書類の写し

8 費用

申請料 2,000円 登録料 3,000円

9 資格認定及び登録

書類審査の結果、認定要件を満たした方に「児童厚生二級指導員」資格の認定証および認定カードを発行し、その登録事務を行います。

※詳細は、一般財団法人 児童健全育成推進財団資料ホームページをご覧ください。